

2018年度 山のトイレを考える会の活動報告

1. 美瑛富士・携帯トイレシステム試行4年目の実施 (表大雪地域での情報ですが)

2017年に引き続き環境省東川自然保護官事務所等と美瑛富士トイレ管理連絡会(北海道の山岳9団体・当会が事務局)が協働し、美瑛富士避難小屋の携帯トイレブースの点検パトロールを実施しました。荒天で中止の団体もありましたが、全部で9回実施することができました。

今年も9月5日の台風によってブースが倒壊、9月14日に環境省で再設置しました。

点検パトロール・維持管理を協働して頂いた道内山岳団体、イニシアチブをとって頂いた環境省東川自然保護官事務所、そして回収ボックスの維持管理、使用済み携帯トイレの処分を引き受けて頂いた美瑛町と上富良野町の関係者の皆さまに感謝申し上げます。



携帯トイレブースの設置を終えて



3年連続でブースが強風で倒壊

[2018年 点検パトロール実施結果]

6月24日(日)	ブース設置(環境省 他)	8月19日(日)	荒天のため中止
7月9日(日)	荒天のため中止	8月20日(月)	日本山岳会北海道支部
7月14日(土)	大雪山国立公園PV連絡会	9月2日(日)	道央地区勤労者山岳連盟
7月22日(日)	札幌山岳連盟	9月14日(金)	環境省(ブース倒壊、再設置)
7月29日(日)	北海道山岳連盟	9月19日(水)	北海道山岳ガイド協会
8月4日(土)	道北地区勤労者山岳連盟	9月29日(土)	ブース撤去(環境省)

また、美瑛富士避難小屋に無料の携帯トイレを配備(150個用意)し、携帯トイレを所持していない登山者に使用してもらおう試みを行いました。期間中113個が使用されました。ティッシュや汚物の散乱減少と認知度向上に寄与したと考えています。

2. トムラウシ山 南沼野営指定地のトイレ問題改善活動に協力

- 1) 十勝総合振興局環境生活課が事務局になって発足した「大雪山国立公園新得地区登山道維持管理連絡協議会 山岳トイレ環境対策部会; トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」の2年目の活動に参加しました。当会は7月28日~29日、トムラウシ南沼でのアンケート調査と携帯トイレブースの使用動向調査も併せて実施しました。

全体の活動の詳細は十勝総合振興局殿よりお願いします。

また、別途ですが昨年と同様、トムラウシ少年グリーンクラブの23人パーティの小中学生10人が、テント泊登山者に携帯トイレを配布する活動をしてきていました。



トムラウシ南沼のアンケート調査



トムラウシ少年グリーンクラブの皆さんと

2) 大雪山国立公園上川地区登山道維持管理連絡協議会（以下協議会）との協働

協議会にお願いして白雲岳避難小屋用に携帯トイレ250個を考える会から提供しました。必要とする登山者(トムラウシ南沼方面縦走者等)から協力金を頂いて提供し、所持率を向上する試みです。トムラ方面の縦走者は携帯トイレ所持者が多く、白雲岳避難小屋での提供は少なかったようです。

3) 東川町大雪山国立公園保護協会（以下保護協会）との協働

昨年同様、旭岳ロープウェイ姿見駅で、保護協会から登山者等へのレクチャーを受託しているNPO法人大雪山自然学校が啓発用のパネルを掲示、特に縦走登山者(トムラウシ南沼方面等)に対し携帯トイレの所持を呼びかけて頂きました。

3. 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言について

念願であった「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」が大雪山国立公園連絡協議会と北海道の18山岳団体共同で7月10日、上川町の大雪森のガーデンにて発表され、大きな反響がありました。この宣言に関連して「山と溪谷社」から投稿依頼があり、山岳雑誌「山と溪谷8月号」に当会からも記事を掲載させていただきました。

4. 2018全道一斉山のトイレデーファイナルを実施

多くの登山者に支えられ2001年から毎年9月に実施してきた「全道一斉山のトイレデー」。「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」が発表されたことを契機に今年を最終回としました。9月2日に北海道の15箇所の登山口で、山のトイレマナー袋やトイレマップを配布、トイレ紙やゴミを拾う清掃登山を行いました。参加者は46名。山のトイレマップ307部、山のトイレマナーガイド194部、山のトイレマナー袋407袋、マナーカード41枚を配布することができました。以上